

チャボシライトソウ *Chionographis koidzumiana* Ohwi

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 3、総点 15。西日本系の植物で、愛知県は分布域の東限にあたる。県内では生育地、個体数ともに少ない。

【形態】

多年生草本。地下茎は短い。葉は束生し、長さ 2~8cm、葉身は卵形~狭卵形、先端は鈍頭、辺縁の下部は細波状となり、基部は細まって柄状になる。花茎は高さ 12~30cm で、分枝せず、線状披針形の茎葉がある。花期は 5 月、花茎先端の穂状花序にややまばらに花をつけ、花被片は 4 個、白色または淡緑色、糸状で長さ 9~15mm、先は幅広くならない。下方 2 個の花被片は退化する。果実は蒴果で長楕円形、長さ 3~4mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (小林 43450, 1993-5-29)、2 豊根 (芹沢 87067, 2011-6-5)。

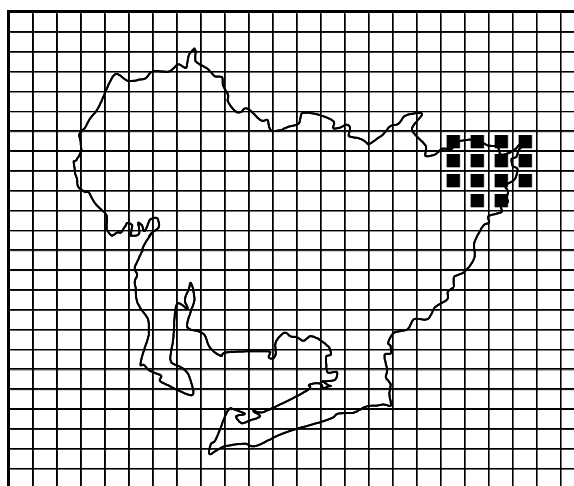
【国内の分布】

本州 (愛知県、紀伊半島)、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内や沢沿いの岩上に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

小群落があるだけで、しかも一昔前に比べ、個体数の減少が著しい。園芸目的の採取が減少の最大の要因と思われる。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取やカメラマン・観察者による攪乱を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

愛知県のもは本種としては大型で、ミカワシライトソウ var. *mikawana* Ohwi et Okuyama として区別されることもあり (大井・奥山 1953)、グリーンデータブックではこの名で収録したが、区別しないという見解 (村田 1954) もあるので、ここではチャボシライトソウとして評価しておく。ミカワシライトソウを区別するならば、固有性階級は 4 になり、評価は絶滅危惧 I A類になる。なお、日本の野生植物 I 18 図版にはチャボシライトソウとして愛知県産の写真が掲載されているが、この写真はシライトソウである。

【引用文献】

村田 源, 1954. チャボシライトソウとミカワシライトソウ. 植物分類地理 15: 157-158.
大井次郎・奥山春季, 1953. 新変種ミカハシライトソウ. 植物研究雑誌 28: 304.

【関連文献】

保草本Ⅲp.153, 平草本 I p.27 (写真を除く), 平新版 I p.159, 環境省 p.549, SOS 旧版 p.92.